

ブルーベリーをありがとう

阿用小学校 三年 安部 仁恋

わたしは、夏休みにうねのおじさんからブルーベリーをもらいました。たくさんブルーベリーがなっただけで、とる人がいなくて、
「とってもいいよ。」と言ってくれたからです。
うちのおいちゃんがつてきました。たくさんあつて何を作ろうかまよいました。タブレットで調べてジャム作りにしようせんすることになりました。

バケツの中のブルーベリーをいい物とわるい物に分けないといけませんでした。赤いやしわしわの物、虫食い、葉、ばや木の枝とかも入っていました。一つ一つ分けないといけないし、いろんなブルーベリーがあつて気になりすぎて、わたしは十二くらいでつかれてやめたくなりました。そしてお母さんが「あきらめるのが早すぎる。農家さんやスーパーの人がいつもしているんだよ。」と言いました。わたしは、話を聞いて大へんな作業を

しているんだと気づきました。だからもう一
どやる気を出してフズギをしました。そして
全部終わって三百グラムになりました。

次の日わたしは、一人でジャムを作ってみ
ることにしました。実を洗ったり、さとうを
はかたりしました。それから小なべでにて
味見をしました。あまくておいしかったから
家族にも味見させてあげました。そしたら、
「おいしい」とびくりしてくれました。ジ
ャムは、すこしほろいたらゼリーみたいにな
るかたまっておどろきました。自分でしてみた
らいろんな発見ができるから、面白いし他の
物もやってみたりしました。

材料のじゃんびやクッキングをしてみ
てくれる人の気もちが分かってきました。
だからわたしは、料理を食べる前に気持ちを
こめていたいただきますをして、食べた後は、
「おいしかったありがとう」と思っ
てごちそうさまを言っ
ていきます。おい
さんにも
ジャムをおすそ
分けできてよか
ったです。